

<金標準、買われ過ぎの域に入り高値が止まる・・・>



(出所：オアシス)

パレスチナのガザ地区を実効支配するイスラム主義ハマスが、10月7日にイスラエルを攻撃して今週で1ヵ月となる。過去の中東における紛争時の金価格の値動きでは、紛争から1ヶ月後は7%近くの下落を行なっているケースが示されている。また10月24日のCFTCのポジションデータによるとネットロングポジションは10月17日から比べ117%増加を示し、8月初旬以来最大となり、328トンの金が2週間で買われた事を示すなど、買われ過ぎの域に入った可能性が高い。

また大阪取引所においても金標準先物の投資部門別建玉内容でも海外投資家は10月6日に5282枚の売り越しから2週間で9872枚の買いが入り4590枚の買い越しに変化するなど、日米の市場で金は大きく買われ過ぎの域にあり、高値が止まると目先は調整を示す確率が高くなっていると思え、中東情勢が膠着状態に入ると9300円に向けた調整を見せてもおかしくないと思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDやRCIでは、MACDはMACDが切り下げながら、シグナルは切り上げるなど弱気のカロスが発生する直前である。またRCIでも短期が下げながら長期をすでに下回るなど、オシレーターでは弱気を示唆している様に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,330,000 円(2023 年 11 月 6 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 81,840 円(2023 年 11 月 6 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>